

日本の経験—知の体系として発信を

薄井 充裕

今年には戦後 70 年、阪神・淡路大震災から 20 年、東日本大震災から 4 年にあたる。過去の戦争・災害、マクロ経済変動など大きな危機を乗り越えてきた日本に、世界はいまも様々な関心を寄せている。

2013 年 2 月、ミャンマー財務歳入省のマウン・マウン・テイン副大臣が来日し、日本の財政金融分野に関する意見交換が行われた。ここでは、戦後 10 年前後、当行の前身にあたる日本開発銀行設立の経緯、その後の運用基本方針について先方から関心が寄せられ説明を行った。ミャンマー政府の今後の財政金融制度の整備にあたって日本に学ぶ強い姿勢を感じた (http://www.jica.go.jp/topics/news/2012/20130221_02.html)。2014 年 12 月、ベトナム政府のムオン首相府副官房長官ほかのメンバーが来日し、戦後 40 年前後、当時の日本の国営企業の民営化動向について説明依頼があり当行にて約 3 時間の討議を行った。現在、ベトナムにおいて、同様な検討が行われており、過去の先進事例として日本を研究しようとする真剣な眼差しがあった。いずれも国際協力機構の周到的なアレンジによるが、1950 年代、80 年代と、時代も関心事項も異なれど、各国の発展段階、政策 이슈—に感じ日本の経験を学ぼうとする両国関係者からの質問は鋭く当方も勉強になった。

先日、設研顧問でもある大西隆日本学術会議会長の講演を聴いた。2000 年「国連ミレニアム宣言」(Millennium Development Goals : MDGs)について触れられ、1. 極度の貧困と飢餓の撲滅、2. 普遍的な初等教育の達成、3. ジェンダー平等の推進と女性の地位向上、4. 乳幼児死亡率の削減、5. 妊産婦の健康状態の改善、6. HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延防止、7. 環境の持続性を確保、8. 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進の 8 つの目標の下、21 のターゲット、60 の指標についてコメントがあった。振り返って考えれば、過去の日本の経験が MDGs に関心を寄せる国々に裨益することも多かろう。

さらに、上記項目との関係においても、日本の近代化の歩みは、遡って明治維新以前にも参考となるものもある。一例だが、R. ルビンジャー『私塾』(SHIJUKU: Private Academies of the Tokugawa Period 石附実・海原徹訳 サイマル出版会 1982 年)では、江戸時代の寺小屋にみる初等教育から私塾、藩校などの高等教育への階梯がいかにかに日本の近代化に寄与したかを見事に分析している。日本の過去の経験(失敗の歴史を含めて)を知の体系として再編集し、IT、ICT 技術も活用して様々な言語で世界に積極的に発信していくことは、日本の歴史の実像を知ってもらう上で大いに有効ではないかと感じる次第である。

2015 年 2 月 23 日